

グアテマラの特色を活かした社会科教材開発

前グアテマラ日本人学校 教諭

沖縄県中頭郡北谷町立桑江中学校 教諭 堤 正 代

キーワード：途上国、先住民、植民地、世界遺産、国際協力、経済格差、持続可能な開発（SDGs）

1. はじめに

2016年4月に赴任した中米グアテマラは、マヤの素晴らしい文化を有しているが、首都（グアテマラシティ）の治安が非常に悪く、児童生徒は制約のある環境の中で生活しているため様々な実体験に乏しい。また、日本育ち、当国育ちのそれぞれが、他方の文化に対して実感が持てず、知識や体験などに偏りが見られた。社会科の授業において、いかに両国の生きた生活文化を学び、その違いや共通点を見いだせるかが課題であった。さらに、異国の地で暮らす児童生徒の基礎・基本的内容の確実な定着（特に日本語による読む・書く・計算などの徹底）、コミュニケーション能力を高めることが課題であった。そこで、グアテマラをはじめとする中南米の現地理解を要に、小学校・中学校社会科の教材開発を研究主題とした。

2. 指導実践・教材開発

小・中学社会を中心に、地理、歴史、公民のそれぞれで教材を考案し実践した。教材は、現地で収集した現物をはじめ、写真や動画、本、新聞記事、パワーポイント（PP）やワークシートなどである。また、各教材に該当する中学校教科書単元と指導要領領域を照らし合わせ、主体的・対話的な学びを目指す参加型手法も検討した。実際には、児童生徒の実態に合わせて活用場面や手法も臨機応変に対応し、試行錯誤を重ねた。さらに、小規模校の本校では、対話的・発展的な学びを構築するために、異年齢集団で授業を行うなどの工夫を行った。また、日々の授業では、日本の教科書を使用した学習内容でも、常にグアテマラとの共通点や相違点を考えさせる発問を投げかけ、足元を見る意識と、日本語を正しく使って説明する習慣をつけさせた。

(1) 地理編

地理の視点でのキーワードは「途上国」「先住民」「植民地」「世界遺産」である。先進国の日本において、途上国の生活を知るとはとても重要で、国際理解を深めるためにもしっかりと学び、考える必要がある。16世紀のスペインの植民地支配により変化した民族構成（マヤ系先住民と西洋系混血ラディーノ）と言語分布（マヤ系言語とスペイン語）を捉えつつ、現在のマヤと西洋が融合した生活文化は、グアテマラの根幹を成す。首都圏の人口は600万とも言われるが、その交通網を俯瞰し、様々なインフラ計画の新聞記事から渋滞緩和のためバス以外の公共交通機関として何が必要か、また観光で外貨を得るために何に取り組むべきかを中学社会でアクションリサーチした。さらに、グアテマラコーヒーのおいしさの秘密を農園の体験から学び、日本との貿易関係とフェアトレードを考えた。この中から、小学社会科で現地理解教育を進めつつ児童生徒と一緒に作成した「グアテマラかるた」の研究授業の概要と成果資料を一部紹介する。

No.	教材【資料・成果物】	中学学習指導要領領域	参加型手法案
1	グアテマラの文化【PP／現物（民芸品）／料理】 ・キリスト教やマヤの伝統行事、民族衣装 ・トルティーヤやフリホーレスの料理実習	第2章 世界各地の人々の生活と環境／指導要領（1）のイ	実習・ゲーム
2	都市の広がり【衛星写真／新聞記事／プリント】 ・首都（シティ）のドーナツ化現象 ・シティの公共交通機関の広がりインフラ計画	第2章 世界各地の人々の生活と環境／指導要領（1）のイ	アクションリサーチ ウェービング

3	環境問題【新聞記事／写真／Web 動画】 ・シティのゴミ問題（ソナ3廃棄場）、リサイクル ・アマティトラン湖、アティトラン湖の汚染	第2章 世界各地の人々の生活と環境／指導要領（1）のイ	フォトランゲージ
4	高地の暮らし【現物（トウモロコシ・ジャガイモ）／写真／本】 ・クスコヤグアテマラの高山地帯の暮らし ・プランテーション農業（コーヒー・バナナ）	第2章6 標高の高い土地に暮らす人々／指導要領（1）のイ	—
5	中米グアテマラ【かるた】 ・衣食住、年中行事、名勝・遺跡等 （札裏面の解説で理解を深める）	第3章5節 南ア州—開発の進展と環境問題／指導要領（1）のウの（オ）	ゲーム

【実践例】「グアテマラかるた」

児童生徒と一緒に毎年取り組み、3年間で完成させた。成果物は、学校行事「もちつき&ジャンボかるた大会」や「ひな祭り集会」で来校者と一緒にゲームとして活用し、盛り上がった。札裏面に解説を入れ、理解が深まるよう工夫した。

①実施：2016年～2019年の毎年

②対象：小学校中高学年（社会科）

③授業方法：まずグアテマラの伝統行事や文化、遺跡などから各自題材を決め、本や資料、聞き取りやWebで調べたことをまとめ、発表する。現地理解を深めるため、行事は実際に参加し、料理や工作は作ってみるなど、体験することに重点を置いた。その後、キーワードを出し合い、読み札に盛り込みながら思いつく限り札案を作る。その中から一番良い作品を選んだり、合体させたりして、より良い札に改善していく。取り札の写真も実際に撮ったものを使うようにした。

単元のまとめとして「残したいもの、伝えたいもの」を校内研修の研究授業で行った。50音かるとから各自一番残したいグアテマラの文化を決め、自分たちに何が出来るかアイデアを出し合い、それをグループ分けするという「出来ることビンゴ」の手法を使った授業を展開した。

④生徒の感想：「色々調べて、その中からキーワードを決め、読み札を考えた。料理はなるべく作ったのでグアテマラの生活が分かった」「グアテマラの文化で学んだことを人に伝えていきたい」「国や市が、昔のものをちゃんと保存し、みんなに素晴らしさを伝えて欲しい」実体験した札を選ぶ子が多かった。

⑤授業の反省：小学生異年齢集団でアイデアをグループ分けする作業が難しかったが、上級生のリードで上手に進行した。自分たちに何が出来るかでは、日本にいずれ帰るからグアテマラ文化に貢献することは難しい、と感想を書いた生徒がいた。そのため後日、授業の振り返りを行い、日本やグアテマラの様々な取り組み事例を見せることで、どこにいても出来ることは沢山あることに気付かせた。

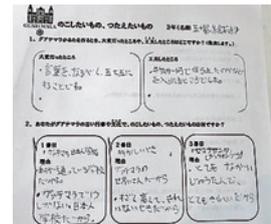
⑥グアテマラかるた（一部掲載）

	読み札	取り札	解説（札裏面）
あ	厄払い ピニャータ燃やして 悪魔の日		12月7日は悪魔の日です。カトリック教徒が8割のグアテマラでは、18時になると道ばたで写真のような悪魔のピニャータ（紙人形）が燃やされます。クリスマスの前に家の中の悪魔や悪いものを追い払おうということで、日本の豆まきと似ています。以前はごみなどを家の前で燃やしていたようですが、火事をおこす恐れがあるため、最近はあまりやらなくなったそうです。ハロウィンが終わり、道端で大小様々な悪魔のピニャータが売られ始めると年末を感じます。
い	素敵な ウイピル 色とりどりの 民族衣装		グアテマラ・レインボーと呼ばれる原色使いのパターンなど、鮮やかな色の組み合わせで知られるグアテマラの織物。特に女性の着る民族衣装の上着を「ウイピル」、スカートを「コルテ」といい、織物は基本的に女性の手仕事で、母から娘へ受けつがれていきます。近年は、村独自の文様や色使いが、趣味や流行で変わることも多くなっているようで、安さや好みで機械織りの生地にしたり、他の村のウイピルを着たりするなど、自由になってきました。また、サンダルやパンプスなどの靴で今風のおしゃれを取り入れている若い女性も都市では多く見かけます。

研究授業ワークシート 写真：異年齢集団の話し合い



左：話し合いながらアイデアを共有し、グループ分けを行った。
右：グアテマラへの郷土愛が感じられるコメント。



う	美しいアグア火山 ふるさと想う グアテマラ富士		シティの南側を見ると、綺麗な円錐形のアグア火山が望めます。この山は標高も3760mと富士山に近いことから在留邦人の間で「グアテマラ富士」と呼ばれ、「♪グアテマラ富士の～秀峰を～静かに写す～火焰樹に～♪」と、グアテマラ日本人学校の校歌にも登場します。火山の多いグアテマラでは、この山の西側に今も噴火を続けているフエゴ火山やアカテナンゴ火山、パカヤ火山があります。2018年フエゴ火山の噴火は、火砕流が発生し、死者行方不明者が400人を超え、世界的なニュースとなりました。
え	長い尻尾 の鳥 ケツァール		グアテマラの国鳥で、国旗の中央にも“自由”のシンボルとして描かれ、またその名前はグアテマラのお金の単位にもなっています。中米の山岳地帯の森林に生息し、オスは非常に美しい緑色の尾羽を持っています。マヤやアステカの神々の中にもこの鳥の形をしたケツァールコアトルという名の神が出てきます。歴史的にも宗教的にも重要な鳥として昔から崇められてきたケツァールは、美しい羽を持つために乱獲や森林破壊が原因で生息数が減少し、現在では絶滅危惧種として保護対象となっています。日本では、手塚治虫の「火の鳥」のモデルになりました。
お	おがぐずの 綺麗なじゅうたん アルフォンブラ		4月頃のセマナサンタ（聖週間）では、プロセシオン（聖体行列）が行われます。その際、アルフォンブラと呼ばれる路上に敷き詰められた色鮮やかな絨毯のような装飾の上を山車を担いだ信徒がゆっくりと踏み締めながら通過します。色を付けたおがぐずや花びらを材料に描き、まるでグアテマラの刺繍模様のように多様で美しいこのアルフォンブラは、前日からプロセシオンが通る石畳上にグアテマラ人がせっせと競うように作成します。わずか半日足らずで消えてしまうこのアルフォンブラとプロセシオンに信仰心の強さと、宗教を通して人々がつながり合っていることが感じられます。
か	香りココの グアテマラ 世界中で大人気 コーヒー		世界的なコーヒーの産地として知られるグアテマラ。生産量は世界第10位。輸出先はアメリカ・カナダに次いで日本が第3位になっています。グアテマラの適度な降雨量と豊かな火山灰土壌、日照時間に恵まれ寒暖差の大きい山岳地帯の山の斜面や高原地帯での栽培がグアテマラコーヒーのおいしさの秘密です。12月頃から、赤く熟したコーヒーの実を収穫し、様々な工程を経て、皮を剥き、種を干して、焙煎し、細かくしたのがお店で売られているコーヒーの粉です。果物を思わせるやや強い酸味と、花のような芳しい香りが特徴的です。
き	復活祝う セマナサンタ キリストの		世界中でキリストの復活を祝う行事、セマナサンタ（イースター＝復活祭）。グアテマラでは8割以上がキリスト教を信仰しており、ひと月前からセレモニーが始まります。セマナサンタ週間は、祝日となりほとんどの店が閉店、道路が閑散とします。教会毎に出すプロセシオン（聖体行列）の山車は最大25mもあり、紫の法衣を身にまとった信者達が交代で担ぎながらゆっくりと行進し、その後ろを数十人の楽隊がパレードする様は壮観です。各地で教会を中心に行事が行われますが、特に世界遺産にもなっているアンティグアは中米最大級で、世界中からの観光客でにぎわいます。
く	みんな大好き グアテマラ マリンバの音 テコ		グアテマラの伝統楽器マリンバは、アフリカをルーツとする楽器が、スペイン植民地時代の16世紀初頭、黒人の人々により持ち込まれ、中米で発展しました。現在の形のマリンバが生まれたのは、19世紀後半、グアテマラであると言われています。木琴に似た打楽器ですが、木片の下に共鳴管がついていて、まろやかな音が耳に心地よく響きます。マリンバ一台にグアテマラテコ（グアテマラ人の愛称）数人が立ち、各自異なる音域を、両手にマレット（パチ）を持って奏でます。

(2) 歴史編

歴史の視点でのキーワードは、「世界遺産」と「植民地」である。中南米に発達した各古代文明の遺跡は世界遺産に登録され、素晴らしい遺構や技術を遺している。小学社会では、マヤ文字で五十音表の作成やマヤ数字を使った簡単な計算、民族博物館やカカオ博物館でのワークショップ、夏休みの調べ学習等、楽しみながらマヤ文明を学んだ。また、国民の祝日や記念日には宿題を出し、調べた内容を説明できるようにした。中学社会では、マヤ文明が現代社会に残したものや、文明滅亡に至った経緯やスペインの植民地支配による影響を考えた。また、植民地支配後の中南米の独立の流れ、冷戦構造を背景にした内戦によって中南米の発展が遅れ、現在もアメリカの影響下にあることは発展的な学習で取り上げた。

No.	教材【資料・成果物】	中学学習指導要領領域	参加型手法案
1	中南米の古代文明 ・マヤ文明【PP／現物（土産品）／本／マヤ文字50音表】 世界遺産：ティカル遺跡、キリグア遺跡 ・インカ文明【写真／動画／本】 マチュピチュ遺跡、モライ遺跡、シユスタニ遺跡	第2章1節 世界の古代文明と宗教のおこり／ 指導要領(2)のA	-
2	中南米の植民地支配【写真／動画】 ・町づくりと言語の分布（カクチケル語・キチュ語） ・独立の流れと内戦、アメリカとの関係	第4章1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一／指導要領(4)のA	フォトランゲージ

(3) 公民編

公民の視点でのキーワードは「国際協力」「経済格差」「持続可能な開発（SDGs）」である。当国では、JICA（国際協力機構）グアテマラ事務所と在グアテマラ大使館には大変お世話になった。JICA 富安誠司所長による職業人講話をはじめ、中学部のJICA 職場体験、JICA 協力事業視察による警察署・警察学校の社会見学、地方で活躍する青年海外協力隊員の出前授業やインタビュー等である。在グアテマラ大使館では、大使公邸訪問や出張講話、在外選挙事前見学等の体験活動や講話等々であるが、これらを通して現地理解を深め、日本の国際協力を発展的な学習へと深化することができた。さらに中学社会では、地方のマヤ系民族と都市の西洋系ラディーノの人権問題や経済格差を何度も授業で取り上げた。学習の最後に、これら経済格差は教育格差と相関関係にあること、これは世界中の途上国に共通する根深い問題であることを、各自がレポートにまとめることができた。同じく世界共通の課題として、人口増加によるゴミ問題・水質汚染と持続可能な開発についても取り扱い、日本と同じ火山・地震国であるグアテマラの自然災害の対策と防災を日本と比較討議した。

No.	教材【資料・成果物】	中学学習指導要領領域	参加型手法案
1	経済格差【ワークシート／新聞記事】 ・都市と地方、西洋系とマヤ系	第1章1節 現代社会の特色と私たち／指導要領(1)のA	プランニング フォトランゲージ
2	在外選挙【現物（投票用紙等一式）】 ・参政権（選挙権）の保証	第2章2節 人権と日本国憲法／ 指導要領(3)のA	体験学習
3	火山災害と防災【新聞記事／Web】 ・フエゴ火山噴火災害	第4章5節 これからの経済と社会／ 指導要領(2)のイ	ディベート
4	持続可能な社会【雑誌記事／写真】 ・パナマ運河と森林伐採、SDGsとは	第4章5節 これからの経済と社会／ 指導要領(2)のイ	フォトランゲージ ディベート
5	国際的な人権の広がり【新聞記事／写真／資料】 ・医療と教育、キチュ県の児童労働	第5章3節 これからの地球社会と日本／ 指導要領(4)のA	ダイヤモンドラン キング ロールプレイ
6	日本の国際援助【PP／動画／インタビュー記事】 ・ODAの現状、JICA 海外協力隊員の現場から ・世界に羽ばたく日本人（ウチナーンチュ）	第5章3節 これからの地球社会と日本／ 指導要領(4)のA	シミュレーション インタビュー

3. おわりに

ある日、児童生徒とグアテマラに来て（住んで）良かったと思うことを話し合った。沢山あるが1番は、異文化に触れ、日本を外から見る事が出来ること、で一致した。グアテマラは地方と都市、マヤ系と西洋系との経済格差が著しい発展途上国だが、首都に住んでいると、急速な発展による溢れる活気に圧倒される。政治や教育、治安や貧困など多くの問題を抱える中米だが、今後の変化を追い続け、それぞれが日本と中米の架け橋になること、これからの世界の急速な流れに対応しながら世界へ羽ばたくこと、を児童生徒と約束した。

末筆ながら、このような有意義な長期研修の機会を与えて下さった諸関係機関に心から感謝したい。この貴重な経験を活かし、今後も‘Think globally, Act locally’「地球規模で考え、足元から行動せよ」を胸に、教育活動に全力を注ぐ所存である。